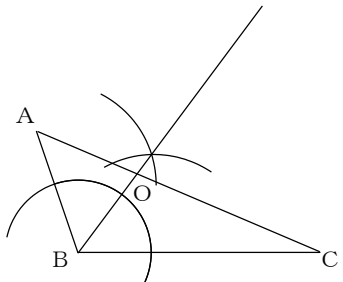


問題番号 配点	正 答 例	採点のポイント
<p>1 〔問9〕 配点 6点</p>		<p>○∠ABCの二等分線の作図の方法を用いて、辺AB、辺BCと接し、中心が辺AC上にある円の中心Oが正確に示されている。</p>
<p>2 〔問2〕 配点 7点</p>	<p>P, Qを, それぞれa, b, cを用いた式で表すと, $P = 100a + 10b + c,$ $Q = a + b + c$ これらより, $P - Q = (100a + 10b + c) - (a + b + c)$ $= 99a + 9b$ $= 9(11a + b)$</p> <p>a, b は整数だから$11a + b$ は整数である。 したがって, $P - Q$の値は, 9 の倍数となる。</p>	<p>○P, Qを, それぞれa, b, cを用いた式で表すことができている。 ○式の変形ができ, 適切に処理することができている。 ○$P - Q$の値が, 9の倍数となることを的確に示すことができている。</p>
<p>4 〔問2〕 ① 配点 7点</p>	<p>△AQCと△CPAにおいて, 共通な辺だから, $AC = CA$ (1) △ABCは二等辺三角形だから, $\angle BAC = \angle BCA$ (2) $AC \parallel PQ$より, 平行線の同位角は等しいから, $\angle BAC = \angle BQP$ $\angle BCA = \angle BPQ$ よって, $\angle BQP = \angle BPQ$ △BPQは二等辺三角形だから, $BQ = BP$ (3) 仮定から, $BA = BC$ (4) また, $QA = BA - BQ$ $PC = BC - BP$ (3), (4)より, $QA = PC$ (5)</p> <p>(1), (2), (5)より, 2組の辺とその間の角がそれぞれ等しいから, $\triangle AQC \equiv \triangle CPA$</p>	<p>○正しいと認められる事柄について, 根拠を明確にして記述し, 仮定から結論を導く推論の過程が的確に示されている。</p>

各学校において, 採点のポイントを踏まえて『部分点の基準』を作成し, 『部分点の基準ごとの点数』を定めること。

なお, 受検者の実態等に応じて, 次の例のように詳細な基準を定めることができる。

- ・ 「○○について××が書かれている。」のように, 具体的な内容を加えること。
- ・ 「○○と△△が書かれている。(3点)」「○○が書かれている。(2点)」「△△が書かれている。(1点)」のように, 段階を設け, 段階ごとの点数を設定すること。
- ・ 「誤字が一つ以上ある。(1点減点)」のように, 部分点の基準を加えること。